

# ほのぼの苑だより

題字：伊藤 キヨエ 様



**第2回美人コンテスト  
華やかな美の祭典!**

第2回美人コンテスト(♂)



出場した男性職員の皆さんです。皆さん女性になりきって、コンテスト会場を沸かせていました。



幸福

今回、ほのぼの苑だよりの原稿依頼を初めて受けました。こんなに早く順番がくるとは思っていなかったもので、少し驚いています。

このコーナーのテーマは、『幸福』です。依頼を受けたとき、自分は普段の生活の中で、どんなときに幸福を感じるのだろうかと考えました。真つ先に頭に浮かんだのは、趣味で習っているお茶のことでした。一碗のお茶を点で、いただいたときは、身体の中からほっとするひとときに感じます。こういうひとときが、幸福なのではないかと感じます。

お茶の世界は、昔からの伝統や決まりごとがたくさんあり、また季節折々は、たくさん行事が行われます。お茶を習うようになってはじめて、先生が用意してくれる和菓子や季節の道具などを目にするだけで、生活の中で季節を感じる余裕も生まれてきたように感じます。

何かに没頭する時間があり、日常の中で心を落ち着かせるひとときがあるということが、今の私の中の、幸福な時間だと思っています。

そんな私ですが、お茶の世界に飛び込むきっかけになったのは、学生時代の先生の言葉にありました。

「人間は何かしらグループに所属している。社会の中には、さまざまなグループがあり、学生のうちは、〇〇学校の学生というグループに属し、生活している。社会に出たら、何に属していくかは、自分で決めていかなければならない。何かしらグループに属し、〇〇の〇〇ですと名乗れることは幸せなことなのだ」

社会人になり、仕事に慣れることに精一杯だった日常の中で、ふと先生の言葉を思い出すことがありました。自分はいくつのグループに所属しているのだろうか、考えました。それからしばらくして、少し仕事にも余裕が出てきたころ、新しいことを始めてみるのもいいのではないかと考え、お茶を習い始めたのです。

お茶を習うようになり、人とのつながりも多くなってきました。先生が意図していたことが、少しわかってきたように感じます。属するグループが増えていけば、それだけ人の輪も大きくなっていきます。お茶を習い始めて、さまざまな年齢や職業の方々とも知り合うことができました。

あなたは、いくつのグループに所属していますか。  
「ほのぼの苑の職員です。」と言えることも、またひとつの幸福と言えるのではないのでしょうか。

発行

医療法人 正和会



介護老人保健施設 ほのぼの苑

〒018-1401

秋田県湯上市昭和久保字街道下 92-1

電話 018-877-7115

FAX 018-877-7481

ホームページ

<http://www.seiwakai-akita-no1.or.jp/>

編集責任者 加藤 稔樹

発行責任者 小林 顕